

伸びていく

厚母至眞子

大きな硝子窓に

五月の陽がさしている

円卓に運ばれてきたのは

コーヒーと水

向かい合う二人は

舞踊家と写真家

「先生は、コーヒーには水、でしたね」

舞踊家の長年の習慣を大切に

ひと言添えて、もてなす写真家

撮影を終えた舞踊家の姿は

交通事故の後遺症を隠しきれない

それでもなお舞台に立ち続け

その年のテーマは「寒月」

もうじき九十歳に手が届く

あの日から三十年近くが経ち

既にこの世を去った師と

写真館をたんだ写真家

大きな硝子窓にさす陽は陰り

既に黒幕で覆われている

師の背を追い続けてきた日々

悲しみも喜びも涙さえも

光を帯びていた日々があった

人生は舞台のようだ

舞台に描かれた軌跡を辿るように

連綿と続く日々が、一本の軌跡を描く

重なり合ったり、折れ曲がったり

伸びていく軌跡

過去も、未来も、現在に

巻き込まれ、包み込まれて

軌跡は伸びていく

尚も

伸びていく

伸びていく

伸びていく

二〇二四年十二月二十二日（日）

詩カフェ 用